

第2学年 道徳科学習指導案

令和7年10月15日（水）第5校時

- 1 主題名 よりよい社会の実現 内容項目 [C-1 2 社会参画、公共の精神]
- 2 ねらい 主人公の困難に挫けそうになる心と、すべての人が生きやすい社会を実現しようとする姿について話し合う活動を通して、よりよい社会の実現のために何ができるか考えようとする実践意欲を育む。

教材名 「すべての人に読書の楽しさを」

（出典：彩の国の道徳「自分をみつめて」埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、内容項目「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること」に関するものである。小学校の道徳においては『勤労、公共の精神』として、働くことを通して「社会に奉仕することの意義を理解し、公共のために役立つことをしようという意欲や態度をもつよう指導」されている。中学校では勤労の項目が分割され、より「社会の一員として、その社会における様々な計画に積極的に関わろうとする」意識や、「社会生活において、一人一人が共に手を携え協力し、誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうとする」自覚を持ち、「社会全体の利益のために尽くす精神」や態度を養いながら、「よりよい社会の実現に向けた個々の努力」を積み重ねることが求められていると捉える。社会参画や社会連帯についての考えを深めさせ、現実の学校生活に生かすことができるよう公共の精神についての考えを深めるとともに、生徒一人一人に自分も社会の一員であるという自覚を深め、互いに積極的に協力し合おうとする意欲を育てていきたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

（略）

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、全ての人が生きやすい社会を実現しようと行動する主人公の姿について話し合う活動を通して、よりよい社会の実現のために何ができるか考えようとする実践意欲を育むことができる教材である。

上記のような生徒の実態を踏まえ、「本来、自己中心的で自分勝手な言動をよくないと思う心が内面には十分あり、誰もが望むよりよい社会の実現については大人より純粋に考えることもできる。」と中学校学習指導要領解説にもあるとおり、生徒たちの内に秘めた、よりよい未来や社会に向かおうとする意欲と、主体的に社会に参画しようとする行動力が、授業を通して高まるように工夫したい。

そのためには、主人公の葛藤や困難を乗り越える過程を本文から丁寧に捉えさせたい。うで、「すべての人がよりよい生活を送るために自分にできることは何か」という課題について思考共有ツール（スパイダーマップ）を用いて考えさせ、意見を共有し議論する活動を充実させる必要がある。学校生活も社会の一つであることを理解し、社会の形成を人任せにするのではなく、学級活動や生徒会活動に積極的に参加することも社会参画や社会連帯であるということを、対話の中で認識させたい。

4 学習指導過程

段階	学習活動 ・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 アンケート結果を見せ不自由を感じる体験をする。 ・目をつぶったまま文字を書いたり、人と話をしたりして分かったことや感じたことを教えてください。	・赤ペンがどれかわからなかった。 ・手探りで不安だった。 ・自分の名前なのに上手く書けなかった。 ・時間がかかった。 ・どこを向いたらいいかわからなかった。 ・相手の声を頼りにした。 ・聞いてもらえているか怖かった。 ・相手に聞いていることが伝わるようにするのが難しかった。	・普段できている簡単なことでも、ハンディキャップがあると、難しく不安になることを実感させる。 ・データをスクリーンへ投影する。 ・2人組で話し合う。隣が不在の時は前と行うように配慮する。 ・話す側、聞く側から多面的に意見を出させる。	5分
すべての人がよりよい生活を送るために自分にできることは何だろう				

展開	2 教材「すべての人に読書の楽しさを」を聞き、話し合う。		・教師が範読する。	
	佐藤さんの考えるよりよい社会を捉える。 (1) 佐藤さんが目指す社会とはどんな社会だと思うか。 (2) 「今日はなんてよい日なんだろう。」といった佐藤さんはどんな気持ちだったのだろうか。 (補助発問) ・よくない日々があったのではないか。 ・この発言は自己満足からきた言葉なのだろうか。 ・自分なら諦めないか。 ・自分だったら同じようにできるか。	・立場の弱い人でも暮らしやすい社会。 ・安心安全な社会。 ・誰もが楽しく過ごせる社会。 ・区別せず平等な社会。 ・平和で傷つく人がいない社会。 ・どんな人ものびのびと過ごせる社会。 ・素直に嬉しい。 ・清々しい。 ・諦めなくてよかった。 ・自分のやってきたことが人の役に立った。 ・自分の思いが他人に届いてよかった。 ・自分のやったことが間違いではなかった。 ・親子に幸せな時間を与えることができても幸せだ。	・視覚障がい者になったからこそ、気づいたことや前向きな気持ちを個人でワークシートに記入し、捉えさせる。 ・個人ワーク後に、1 分間左右の生徒と意見交換する。 ・「必要とされてないならやめようか」というマイナスな気持ちもあったことに気付かせ、心の奥に潜む葛藤について考えさせる。 ・社会のために行動することが、佐藤さん個人の幸せに繋がっていることに気付かせる。 ・生徒の発言の中でよりよい部分を反芻しながら、短文で板書する。 ・佐藤さんの考えるよりよい社会について、他の生徒の発言を聞きながら、多面的・多角的に考えている。 (ワークシート) 【多面的・多角的】	3 5 分

終末	4 今までの自分を振り返る。 本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように活かしていくか考え、道徳ノートに書く。	・思ったことをすぐに口に出して、友達に嫌な思いをさせたことがあるため、人の気持ちを考えて発言しようと思った。 ・自分が困っているときに声をかけてもらえてうれしかったから、友達が困っている気がしたら積極的に声をかけたい。 ・自分が呼びかけたときに反応がなくてすごく悲しかったので、仲間の呼びかけに素直に応じようと思う。 ・自分が関わった行事などがうまくいったときに達成感を感じたので、自分に任された仕事や役割を全うする。	・話し合い等を通して考えたことについて道徳ノートに書かせる。 ・過去の体験や経験などの根拠を述べてから、何ができるかという行動の部分につながるよう配慮させる。 ・他人の意見や自分の体験などを踏まえながら、よりよい生活を送るために自分に何ができるかについて自分との関りで考えを深めている。(道徳ノート)	10分
	(4)あなたは学校の一員として、すべての人がよりよい生活を送るために自分にできることは何かだと思いますか。	【自分との関わり】		

5 他の教育活動等との関連

事前指導	・朝の会、帰りの会 社会科「社会的存在」 生徒会本部役員選挙 体育祭 後期委員会・学級係決め
道徳科	・教材名「すべての人に読書の楽しさを」
事後指導	・しらさぎ祭 社会体験事業の活用
家庭との連携	・授業内容や生徒の感想を学年通信などで紹介

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・佐藤さんの考えるよりよい社会について他の生徒の発言を聞きながら、多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・他人の意見や自分の体験などを踏まえながら、よりよい生活を送るために自分に何ができるかについて自分との関わりで考えを深めている。

7 板書計画

ホワイトボード

(スライドを投影)

(1) 佐藤さんが目指す社会とはどんな社会だと思うか。

(2) 「今日はなんてよい日なんだろう。」
といった佐藤さんはどんな気持ち
だったのだろうか。

(3) すべての人がよりよい生活を送る
ために、自分にできることは何だ
ろう。